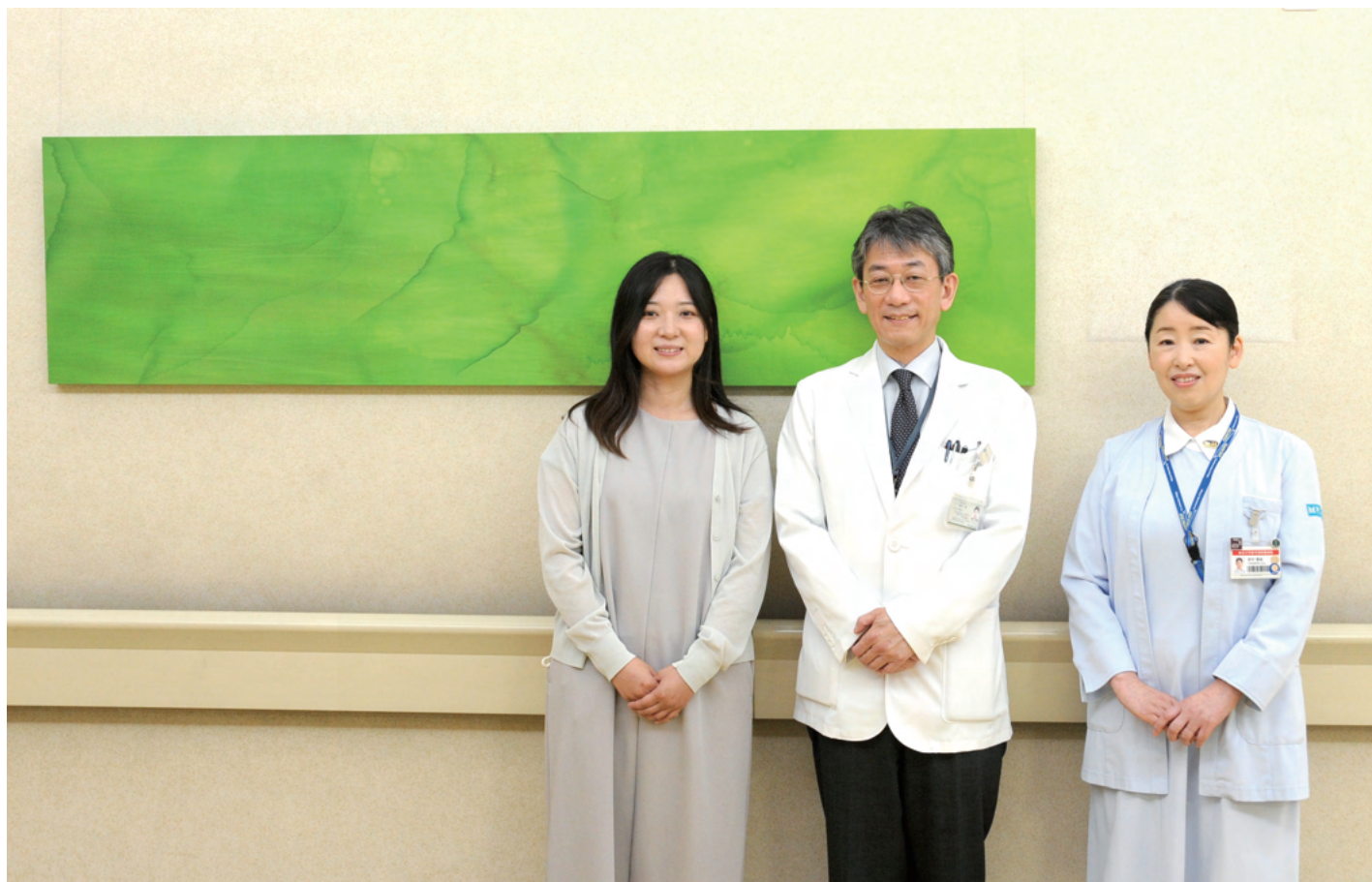


東大病院だより

THE UNIVERSITY OF TOKYO HOSPITAL NEWS



【特集】

待ち時間に安らぎと心地よさを

—ホスピタルアートに込めた思い—

東大病院から世界へ発信

泌尿器疾患の最先端／低侵襲治療への取り組み

『健康と医学の博物館』の歩き方

No. 114
2025.8

外来診療棟1階に新たに設置した作品の前にて
(左から、本作品の作者である山本愛子さん、
田中栄病院長、武村雪絵看護部長)
※本誌特集より

hd 東大病院
The University of Tokyo Hospital

待ち時間に安らぎと心地よさを —ホスピタルアートに込めた思い—

2025年5月、東大病院ホスピタルアート導入プロジェクトの一環として、外来診療棟の1階と2階に新たなアート作品を設置しました。東大病院周辺の植物（薬草）を使用した草木染めで、アーティストの山本愛子さんの作品です。アートによって院内に「自然」を取り込むことで、来院される皆様に安らぎと心地よさを提供したいと考えています。

■ プロジェクト始動

プロジェクトは2024年春に始動しました。近年、いきいきとした療養環境を実現するために医療・福祉施設において芸術を導入する機運が高まっています。当院でもホスピタルアートを導入することで患者さんの療養環境の向上はもちろん、アート導入過程における多職種スタッフ間のコミュニケーションやスタッフのモチベーションのアップなどにつなげたいという考えから、ワーキンググループを立ち上げ、検討を重ねていきました。ワーキンググループには、11の職種と学生を合わせ54名ものメンバーが参加しました。



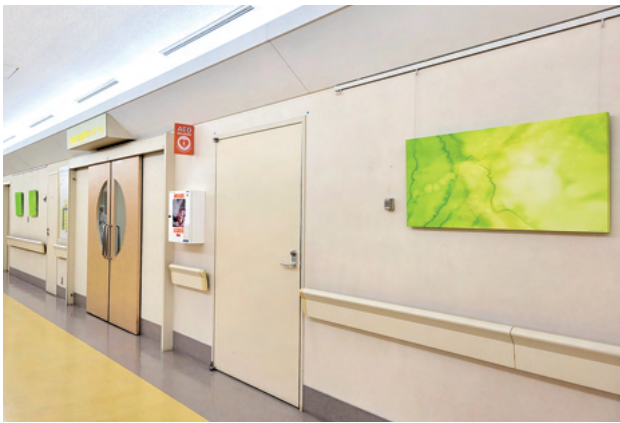
■ ホスピタルアートのコンセプト

まずはコンセプトの検討から始めました。当院を訪れる人や働く人にどんな体験を提供したいか、なぜ当院でその体験が大切なのかという点を軸に、様々な



意見があがりました。そして、「自然」「癒し」「心地よさ」「グリーン」「東大らしさ」「品格」というコンセプトを決めました。

一般的にホスピタルアートではワークショップなど参加型の企画もよく行われますが、参加できる人数が限られてしまうことや、この先当院を訪れる多くの方に癒し・心地よさを提供することが大切であるとの考えから、今回は作品の完成度・クオリティを優先し、アーティストに作品を依頼することにしました。また、作品の制作過程に参加できなくても、制作過程を紹介することや、作品に東大らしさを取り入れてもらうことなど、作品に親しみを感じてもらう方法を探しました。



■ 山本愛子さんに作品を依頼

コンセプトと照らし合わせながら議論を重ね、アートフロントギャラリーから推薦していただいた複数のアーティストの中から、自然環境と人間の関係性をテーマに主に染色技術を用いた作品を制作している山本愛子さんに作品を依頼しました。作品は草木染めで、当院がある東京大学本郷キャンパス内の植物の中でも、古くから薬草として親しまれてきた葛（クズ）の葉と椿（ツバキ）の枝葉を採集してつくった植物染料を使用しています。緑に恵まれた当院の環境から生まれた作品《内景》は、染色のにじみや揺らぎといった境界のないやわらかな世界を感じることができる作品です。

制作プロセス



植物採集

東京大学敷地内（東大病院周辺）を歩き、葛の葉と椿の枝葉を採集します。どちらも薬草としての歴史を持つ植物です。



染料作り

採集した植物を煮出して染液をつくります。自然の色がゆっくりと水ににじみ出て、淡くやさしい色彩が現れます。



草木染め

綿布を90℃の染液に浸して染める「浸染（しんぜん）」技法を用いて植物の色を布にしみ込ませます。



定着処理

染めた布が色落ちにくいようアルミ媒染剤を使って色を布に定着させます。定着後、③の工程を繰り返すことで、色に深みを出すことができます。



刷毛染め

植物染料の上から、類似した色味の顔料を「刷毛染め（はけぞめ）」技法を用いて重ねます。色褪せを補うと同時に、にじみや揺らぎの表情を引き出しています。最後に熱処理定着をして完成です。

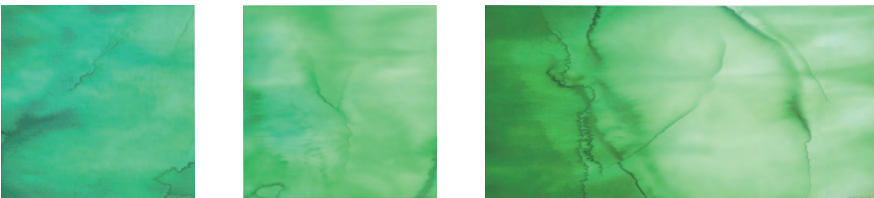
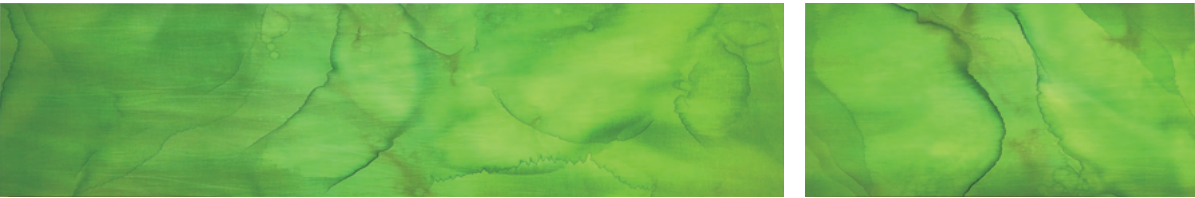
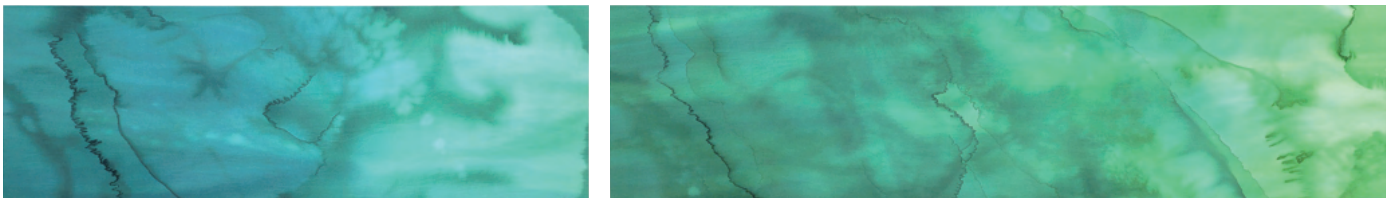
内景 NAIKEI – Inner Landscape

作:山本愛子
2025

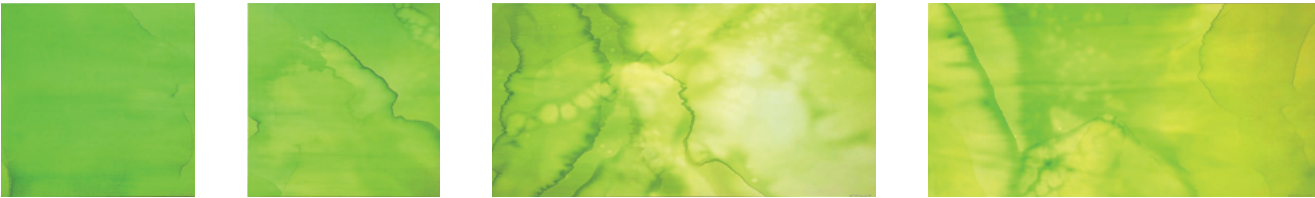
東京大学本郷キャンパス敷地内の葛(クズ)の葉、椿(ツバキ)の枝葉、綿布、アルミ媒染液、顔料、パネル

使用した植物の効能

葛(クズ) … 発汗・解熱・肩こりの緩和など、身体の巡りを整える薬草
椿(ツバキ) … 抗炎症・保湿作用があり、肌や髪を守る薬草



2F



1F

アーティストプロフィール



山本愛子
(やまもと あいこ)

東京藝術大学大学院先端芸術表現科修了。
自然環境と人間の関係性をテーマに、主に染色技術を用いた作品を制作する。アジアを中心に国内外でフィールドリサーチや滞在制作を行い、土地に根ざした自然の記憶と人の営みが交差する痕跡や風景を可視化することを試みる。
主な展覧会に、グループ展「往古来今／見えない泉をさまよいさがす」(横須賀美術館／神奈川 2024)、個展「BankART Under 35」(BankART KAIKO/ 神奈川 2021)など。

アーティストの言葉

作品《内景》の制作のはじまりは、東大病院がどのような環境にあるのかを知りたいという関心から、敷地内を歩いてみることでした。すると周囲には多くの植物が息づいていて、自然豊かでやわらかな空気が流れている場所であることに気づかされました。この空気感を作品にも表現したいと感じ、薬草としての歴史と効能を持つ葛の葉と椿の枝葉を採集し、植物染料をつくりました。これらは、内服・外用の薬草として古くから親しまれてきた植物です。効能を秘めたその色を布に染め、さらに同系色の顔料を重ねることで、染色のにじみや揺らぎといった境界のないやわらかな世界を深めていきました。

待合室で椅子に座ると、目の前の壁にこの作品が飾られています。植物の内なる色をいただくことで生まれた《内景》に、ぜひ自分の感覚をゆだねてみてください。作品を感じるひとときが、呼吸を整え、心をゆるめ、待ち時間が少しでも穏やかで豊かなものになればと願っています。

泌尿器疾患の最先端／低侵襲治療への取り組み ～患者ファーストの治療を目指して

泌尿器科・男性科で扱う臓器は副腎、腎、腎盂・尿管、膀胱、前立腺、精巣などです。また領域としては、悪性腫瘍、排尿障害、腎不全、尿路結石、尿路感染症、性功能、骨盤臓器脱、内分泌異常、小児疾患など多岐にわたり、対象患者も小児から高齢者に幅広く存在します。特に高齢者の疾病が多く、高齢者の増加に伴い泌尿器科に求められる役割は年々大きくなっています。当科で行っている特徴的な取り組みにつき紹介いたします。



1 ロボット支援手術

東大病院では2023年夏に外科手術用ロボットとしてhinotori サージカルロボットシステムを導入し、当科ではDa Vinci Xi 2台とhinotori 1台の両者をフルに使用しています。hinotoriは、国産の外科手術用ロボットでオペレーションアームは8軸で構成されていることから滑らかな動きとアーム同士の干渉が少ないことが特徴です。当院でこの機械を用いる第一号手術として当科手術が選定され、2023年7月18日に前立腺癌に対するロボット支援前立腺全摘除術(RARP)を実施しました。以降、hinotoriを用いてのべ100例以上のRARPを施行しており、大きな合併症なく安全に実施してきました。当科では、このhinotoriを用いてRARP以外にも腎臓摘除術、腎部分切除術も施行しているほか、膀胱全摘除術や副腎摘除術でも導入予定です。また、当科は、このhinotori術者の認定見学施設として認定されており、多くの泌尿器科医が当科手術を見学にみえます。日本で初めてhinotoriを用いてレチウス温存RARPやロボット支援後腹膜腫瘍摘除術の実施にも成功し、その成果は国内外に論文や学会発表として発信し続けています。

2 尿路上皮癌の薬物療法

近年、尿路上皮癌(膀胱癌など)に対する新しい薬物療法が次々と登場しており、当科ではこれらを積極的に取り入れて、成績の向上に努めています。例えば、一般的に広く行われている一次治療は「GC療法」という2剤併用療法ですが、当科ではより効果の高い「dose-dense MVAC療法」という4剤併用療法を早くから導入して、良好な成績を収めています。dose-dense MVAC療法は効果が高い反面、副作用管理が難しい点がネックでしたが、当科では独自の減量基準を導入し、病棟薬剤師と密に連携することでこれを克服しました。最近では、dose-dense MVAC療法とその後の維持療法の治療成績を、世界に先駆けて論文報告しました。

一方、近年多くの癌に対して新しい免疫療法(免疫チェックポイント阻害薬)が行われていますが、当科では尿路上皮癌に対する免疫療法の効果を高めるべく、様々な試みを行っています。その一つとして、腸内細菌叢を整えることで免疫療法の効果が高まるかを検証するランダム化比較試験を実施しています。当科では今後も、尿路上皮癌の薬物療法に積極的に取り組んで、世界に向けて最新のエビデンスを発信していきたいと考えています。



hinotori サージカルロボットシステム (操作トレーニング時に撮影)

3 ゲノム研究

近年のゲノムシーケンス技術の進歩に伴い、がん遺伝子パネル検査の保険診療への導入など、がん臨床におけるゲノム情報を活用した個別化医療が進んでいます。当科ではこれに先駆け、2000年頃より凍結保存してきた多数の手術検体を用いて、京都大学や国立がん研究センターなどと協力し様々な泌尿器腫瘍のゲノム解析を行ってきました。その結果、腎癌、クッシング症候群、腎盂・尿管癌の網羅的ゲノム解析がトップジャーナルに掲載され、現在のゲノム診療における基盤研究となっています。

当科ではさらにマルチオーム解析、空間トランスクリプトーム解析、単一細胞解析などの最新技術を用いた腫瘍微小環境や細胞間相互作用の解明、オルガノイドを用いた発がん初期メカニズムの解明、尿や血漿中の遺伝子変異の検出によるがんバイオマーカーの樹立など最先端の研究を進めており、今後のがん臨床への応用へ向けた橋渡しとなることを期待しています。

4 間質性膀胱炎について

間質性膀胱炎は高度の膀胱痛や頻尿を呈する病気ですが、100年以上前からその存在は認知されていたものの、ながらく原因不明の難治性疾患として対応されていました。

当科では古くよりこの疾患の原因解明に取り組んでいます。近年の当科の研究でこの疾患が炎症性疾患であり、自己免疫の関与が示唆されることが発見されました。この結果はこれまでの間質性膀胱炎に対する診療の常識を大きく変化させ、国際的な教科書の知識を塗り替える研究成果となりました。

臨床においても、厚生労働省難治性疾患政策研究事業として当科主導で世界最大の患者レジストリ研究を行っており、この結果を踏まえた国際的な診療ガイドラインの作成を行っています。

今後も国内外をリードする施設として診療を行っていきたいと考えています。

より良い病院運営を 目指して

事務部長
中湖 博則



この4月に、東京大学医学部附属病院事務部長・病院長補佐に着任しました中湖です。

改めまして、ふつつかではございますがよろしくお願いします！

事務部長に着任して早2か月が経ちましたが、さすが東大病院だと思ふところがたくさんあります。多くの診療科・診療部門等を抱えて、最先端の医療を提供し続けていることはもちろんのこと、ホリスティックな空間を考慮した国際検診センターや特別病棟、特別外来の設置、東大病院サポーターズクラブの運用と予防医学センターによる人間ドックの取組み等々、患者療養環境面においても、とても大胆な取組みを行っています。

また、この大きな組織の中で、意思決定プロセスや意思疎通していくことは大変難しいことです。多職種連携による各委員会や部署等において様々な課題解決策を提案するとともに、病院長と様々なメンバーで構成された執行部や担当者・関係者間で忌憚ない意見を交わしており、病院一丸となって進めていると強く感じています。

一方で、現在の社会情勢や大きな組織の病院であるが故の、様々な課題・問題があります。「東大病院の目指す方向」でも掲げていますが、例えば、施設設備の老朽化や執務室・スペースの不足、病院経営の問題、地域医療機関との連携については、患者さんへの診療提供や教職員の仕事に大きく影響しますので可能な限り早く解決していきたいと思っています。他にも当院は社会のニーズを踏まえ、幅広く業務に取り組み、多くの部署を設置していることから、効率的・効果的な運用になるために自分なりに発想の転換をしつつ、病院運営の改革、そして患者サービスの向上に努めていきたいと考えています。

今後も、病院長や執行部を中心に、教職員の方々と前向きに、明るく、共感しあいながら前進していきたいと思っていますが、そのためには意見を言い合える職場、風通しの良い職場は非常に重要だと感じています。幸い事務部にも各課長をはじめ、優秀で頼りになるスタッフがたくさんいます。東大病院が社会に益々貢献できるよう職員一同、病院運営の発展に取り組んでいきます。

疲れやすい、寒がり…それ、 「甲状腺機能低下症」かもしれません

文／腎臓・内分泌内科 准教授 榎田 紀子

東大病院には、甲状腺の病気で来院される患者さんが多くいらっしゃいます。なかでも「甲状腺機能低下症」は、女性に多く見られ、年齢を問わず誰にでも起こり得る病気です。

■ 甲状腺って何をしているの？

甲状腺は、のどぼとけの下にある小さな臓器で、体のエネルギー代謝を調整するホルモン(甲状腺ホルモン)を作っています。このホルモンが不足すると、体の働きが全体的にゆっくりになってしまいます。

■ こんな症状に要注意

疲れやすい、寒がり、便秘、体重増加、むくみ、皮膚の乾燥、物忘れ、気分の落ち込み…これらが「加齢」や「ストレス」ではなく、実は甲状腺機能低下症のサインかもしれません。

■ 橋本病＝甲状腺機能低下症 ではありません

甲状腺機能低下症のもっとも一般的な原因は「橋本病」という自己免疫の病気です。自分の免疫が誤って甲状腺を攻撃し、それがひどくなるとホルモンが作れなくなります。日本人医師の橋本策(はかる)博士が最初に報告したことから、この名前がつけました。「慢性甲状腺炎」とも呼ばれます。注意が必要なのは橋本病だからといって全員が甲状腺機能低下症になるわけではありません。そのほかにも、甲状腺の手術や放射線治療の後、あるいは特定の薬の副作用によって起こることもあります。最近では、がんに対する免疫療法の影響で甲状腺機能低下症がみられるケースも増えています。また、出産後に橋本病の自己免疫が強まって甲状腺が壊れ、一時的に甲状腺ホルモンが上下することがあり、注意が必要です。

■ 検査と治療

血液検査でホルモンの値(遊離T4、遊離T3)と脳の下垂体から分泌される甲状腺命令ホルモン(TSH)

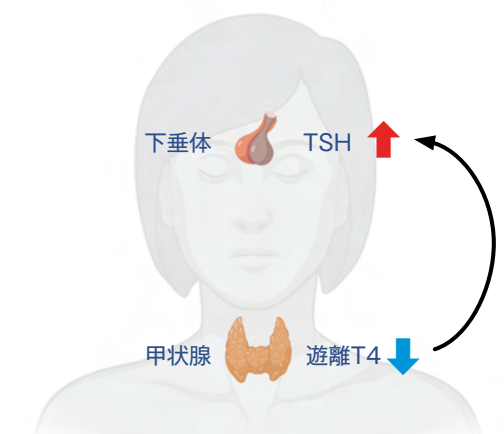
と一緒に調べれば、簡単に診断できます。治療は、足りないホルモンを薬で補うだけ。1日1回の内服で、ほとんどの人が症状を改善できます。薬の量は定期的な採血で調整していきます。

■ 放置するとどうなる？

無治療のまま長期間過ごすと、動作や意欲の低下が進み、重症では意識障害(粘液水腫性昏睡)をきたすこともあります。特に高齢者では「認知症」と誤診されることもあるため注意が必要です。

■ 気になるときは、早めに受診を

「なんとなく調子が出ない」「年齢のせいだろう」と見過ごされがちですが、血液検査で明確にわかる病気です。気になる症状がある方は、まずは医療機関にご相談ください。



甲状腺機能低下症の診断には、下垂体からの命令ホルモン(TSH)と甲状腺ホルモン(遊離T4)をペアで測定する。甲状腺ホルモンの分泌が低下すると、下垂体が刺激されてTSHが上昇する。

宇宙を旅した風呂敷

—古川聡宇宙飛行士より公式飛行記念品が返還されました—

12年ぶり2度目となる国際宇宙ステーション(ISS)での活動を終え、2024年3月に地球に帰還した古川聡宇宙飛行士(89年東京大学医学部医学科卒、元・当院大腸・肛門外科医師)が2025年3月12日に来院され、「公式飛行記念品」としてISSへ持参していただいた当院の風呂敷が返還されました。返還式では、公式飛行記念品とともにアメリカ航空宇宙局(NASA)による飛行証明書(Certificate of Authenticity)が田中栄病院長に手渡されました。

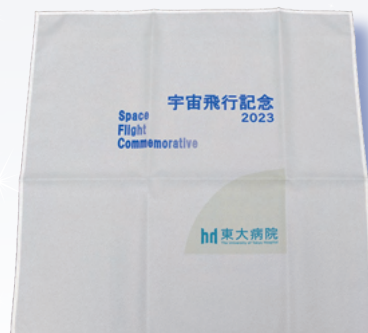
公式飛行記念品は、宇宙飛行士がISSへ持参する個人の持ち物の一部として積み込まれるものです。「是非、出身校の品を宇宙飛行させたい」との古川宇宙飛行士のご意向によって公式飛行記念品の提供機関の一つに当院が選定されたと宇宙航空研究開発機構(JAXA)からご連絡をいただき、2023年1月に日本の伝統文化である風呂敷を記念品としてお預けしました。

NASAによる飛行証明書には、「This Banner was flown for The University of Tokyo Hospital aboard the International Space Station during NASA Expedition 70 and Crew-7.」との記載と、クルードラゴン宇宙船運用7号機(Crew-7)Endurance号に搭乗した古川宇宙飛行士を含む4名の宇宙飛行士の名前や、打ち上げ日時(2023年8月26日午前3時27分:米国東部夏時間)、帰還日時(2024年3月12日午前5時47分:米国東部夏時間)などが古川宇宙飛行士の署名とともに記載されています。

古川宇宙飛行士にとって2度目の飛行となった今回は、第69次/第70次長期滞在クルーとしてISSに約6ヶ月半滞在し、様々な実験を行いました。2回の飛行における宇宙滞在時間は366日8時間34分で、日本人宇宙飛行士として若田光一宇宙飛行士に次ぐ滞在時間となります。



古川聡宇宙飛行士(左)と田中栄病院長(右)



返還された公式飛行記念品の風呂敷



アメリカ航空宇宙局(NASA)による飛行証明書

※外来診療棟1階のエントランスホールに公式飛行記念品のレプリカを展示しています。

気管支喘息・COPD専門外来を新設しました

2025年4月より呼吸器内科に「気管支喘息・COPD専門外来」を新設しました。

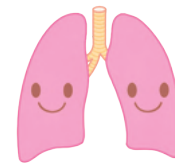
本専門外来では、咳や痰、息切れといった症状が続く方、季節の変わり目や天候の変化で症状が悪化する方、過去に喘息や慢性閉塞性肺疾患(COPD)と診断された方などを対象に、専門的な診療を行っています。

最新のガイドラインに基づいた治療を提供し、吸入薬の使い方の確認や生活指導を通じて、症状のコントロールと生活の質(QOL)の向上を目指します。呼吸機能検査や胸部CTなどの画像検査により、症状の背

景にある病態を正確に評価することが可能です。

近年では、効果的な吸入薬に加えて生物学的製剤などの新しい治療選択肢も広がっており、症状が改善しない方への対応も進化しています。患者さんとの丁寧な対話を重視しながら、最適な治療と一緒に考えていきます。

症状が改善せずお困りの方、より詳しい検査や専門的な治療をご希望の方は、ぜひ一度ご相談ください。地域の医療機関と連携しながら、安心して受診いただける外来づくりを目指しています。



受診を
ご希望の方へ

診察日 ▶ 月曜日午後、火曜日午後、水曜日午後、金曜日午前

受診方法 ▶ かかりつけ医からの紹介状をご用意のうえ、予約センターへお電話いただき、呼吸器内科の「気管支喘息専門外来」または「COPD専門外来」をご希望の旨をお伝えください。

【東大病院予約センター】

電話 ▶ 03-5800-8630 受付時間 ▶ 10時～17時(土、日、祝日、年末年始を除く)

外来受診支援アプリに新機能

～「あと払いサービス」開始～

診察が終わったら
すぐに帰れるから助かる！

当院の外来受診支援アプリで「あと払いサービス」を開始しました。利用登録をいただくと、外来診察後、会計を待たずにお帰りいただくことができます。引き続き、自動支払機および窓口でのお支払いも継続していますので、通院スタイルに合わせてご選択ください。

ご利用のながれ

【1】外来受診支援アプリの利用登録

外来受診支援アプリをご利用でない場合は、先にアプリの利用登録が必要です。再来受付機から発行される受診票の二次元コードを読み取り、手続きを行ってください。(アプリは再診時からご登録いただけます。)



外来受診支援アプリについて
詳細はこちら▶



【2】あと払いサービスの利用登録

(EPARK会員登録、クレジットカードと診察券の登録)

当院の外来受診支援アプリはEPARKのスマートガイドシステムを利用しており、あと払いサービスをご利用いただくにはEPARK会員登録が必要です。右記の二次元コードを読み取り、会員登録を行った後(他サービスで会員登録済みの方はログイン後)、画面に従ってクレジットカードと診察券の登録を行ってください。



登録はこちらから▶



あと払いサービス
について
詳細はこちら▶



【3】診察当日の手続き(あと払い利用受付)

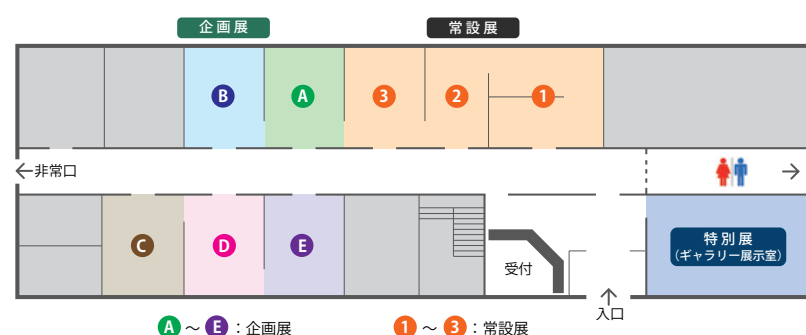
再来受付後、診察前までにアプリの「あと払い」から「あと払い利用受付」を行ってください。診察が終わったらフロア受付(さらにフロア受付で案内された場合は6番計算窓口)で「あと払いを利用する」旨をお伝えください。窓口にて確認後、そのままお帰りいただけます。

※各種公費の自己負担上限管理票の記載が必要な方等、本サービスをご利用いただけない場合があります。

『健康と医学の博物館』の歩き方

東京大学医学部・医学部附属病院は、1858年の神田お玉が池種痘所の開設を起源としています。健康と医学の博物館は医学部・医学部附属病院の150周年記念事業の一環として構想され、2011年1月に開館しました。日本国内に医学関連の博物館はいくつかありますが、健康や医学をテーマにした博物館は珍しいと思います。今回は、健康と医学の博物館の北出さんに館内を紹介していただきます。

健康と医学の博物館は、3つの展示室(常設展、企画展、特別展)に分かれています。



常設展

常設展では、主に東京大学医学部・医学部附属病院の160年を超える歴史を紹介しています。ただ、これだけのスペースで歴史の全貌を紹介することはできないため、東京大学にまつわる大きなトピックスを取り上げた展示になっています。

トピックスとしては、東大病院の起源、がんに関する業績、胃カメラの開発、アレルギーや筋生理学に関する業績、看護の歴史を紹介しています。昔の医療機器を見ると、少し感慨深い気もします。先人の努力が今の医療に活かされていることを感じられるのではないのでしょうか？

各パネルの近くには音声ガイド用二次元コードを設置しています。パネルで紹介しきれなかった内容やエピソードも聞くことができます。本学医学部に在学中の現役医学生と共同で作成している音声ガイドをぜひお楽しみください。

企画展

企画展では、現代の医療で代表的な5つのテーマに沿って、観覧・体験ができる展示になっています。

まずは、ロコモティブシンドロームや人工関節。主に、整形外科・リハビリ領域を紹介しています。いつまでも立つ・歩くという能力を保持するためのヒントがあるかもしれません。



さらに進むと、生活習慣病の代表格とされている糖尿病や腎臓病を紹介するコーナーがあります。疾患へのアプローチや食事療法の詳細などが分かるようになっています。あなたの食事を見直すきっかけになるかもしれません。



次に、感染症です。最近、コロナ禍で注目された感染症。感染症を引き起こす原因となるもの、その形などが分かる模型などを展示しています。模型は、ガラスで作られたものです。なぜ、ガラスなのでしょう？ぜひ展示を見て確認してみてください。



続けて、心臓・血管系とその疾患を紹介しています。高血圧は身近なところでよく耳にします。高血圧と密接な関係がある血管が硬化していく様子を模型で体験することができます。血管がこんなに硬くなるとは、少し驚きです。また心臓の機能を3D映像でご覧いただけます。



最後は、がんの診断と治療です。日本人の死因の上位に必ず入ってくるがん。その種類も治療も多岐にわたります。初期のがん治療に用いられる内視鏡や、最近使用件数が増えているロボット支援手術を紹介しています。「大腸探検」の映像では、がん以外にも、大腸の不思議を感じることができるかもしれません。



廊下には、各コーナーの内容に関するクイズコーナーも設けています。お時間があれば、ぜひ挑戦してみてください。

特別展

現在、特別展は開催していませんが、開催が決まりましたら公式WEBサイトでご案内する予定です。

博物館WEBサイト▶



施設概要

東京大学医学部・医学部附属病院
健康と医学の博物館

開館時間：10時～17時(16時30分最終入館)
定休日：毎週水曜日 ※水曜を含め祝日は開館
年末年始(12月29日～1月3日)
入場料：無料

お問い合わせ

「健康と医学の博物館」事務局
TEL：03-5841-0813(開館時間内)
Eメール：mhm@m.u-tokyo.ac.jp



“蒸し茄子のさっぱり梅ドレッシングがけ”

気温や天候が変わりやすい日が続きますが、疲れや不調を感じている方はいらっしゃいませんか。今回は、免疫力を高める効果がある「茄子」に、食欲増進効果・疲労回復効果が期待できる「梅干し」を合わせた一品をご紹介します。梅ドレッシングの酸味でさっぱりいただけますので、食欲が落ちた時などにぜひお試しください。



ワンポイントアドバイス

「梅ドレッシング」は調味料を工夫することで色々な楽しみ方ができます。(2人分)
【中華風】
梅ドレッシングにごま油小さじ1と白ごま小さじ1/2を加えろ
【カルパッチョ風】
梅ドレッシングにオリーブオイル大さじ1を加えろ
【お塩を控えたい方】
梅ドレッシングの材料のめんつゆを減らし(小さじ2→1)、酢の分量を増やす(大さじ1と1/2→2)
その他にも、冷奴の味付けやうどんのつゆとして活用できます。



【材料】(2人分)

茄子	100g(小さめ2本)	○梅ドレッシング○	
鶏むね肉(皮なし)	160g	梅干し	15g(小さめ3個)
片栗粉	10g(大さじ1)	酢	大さじ1と1/2
ミニトマト	90g(6個)	めんつゆ 3倍濃縮	小さじ2
大葉	4枚		
貝割れ大根	10g(1/4パック)		

【作り方】

- ①茄子はヘタを落とす。1本は縦半分に切り斜め切り、もう1本は皮をむき縦半分に切った後乱切りにする。茄子は変色しやすいので、切ったらすぐに水につけて5～10分程度アク抜き、水気をよくきる。耐熱皿に並べ、ラップをして電子レンジで2～3分加熱後、粗熱を取り冷蔵庫で冷やしておく。
- ②鶏むね肉はそぎ切りにし、表面に薄く片栗粉をまぶす。鍋にたっぷりの湯を沸かし、鶏むね肉を火が通るまでゆでた後、粗熱を取り冷蔵庫で冷やしておく。
- ③梅干しは種を取り除き、包丁でたたき、酢とめんつゆを加えてよく混ぜた後、冷蔵庫で冷やしておく。
- ④ミニトマトは半分、貝割れ大根は2～3cm程度の一口大にカットする。
- ⑤お皿に大葉を敷き、冷やしておいた鶏むね肉・茄子、ミニトマト・貝割れ大根を盛り付ける。
- ⑥冷やしておいた梅ドレッシングをお好みの量をかける。

【栄養量】※上記のレシピ1人前を摂取した場合

エネルギー136kcal たんぱく質16.4g 脂質1.4g 炭水化物12.3g 食塩相当量1.3g

食材の成分(可食部・1人前あたり)

	茄子(50g)	梅干し(7.5g)
エネルギー(kcal)	11	2
たんぱく質(g)	0.55	Tr
脂質(g)	0.05	Tr
炭水化物(g)	2.5	0.5
食物繊維(g)	1.1	0.2
食塩相当量(g)	0	0.6
ミネラル		
カリウム(mg)	150	22
リン(mg)	9	1
鉄(mg)	0.15	0.05
ビタミン		
A(μg)	4	Tr
D(μg)	0	(0)
K(μg)	5	(0)
B1(mg)	0.03	Tr
B2(mg)	0.03	Tr
ナイアシン(mg)	0.25	0.02
C(mg)	2	0
葉酸(μg)	16	Tr

茄子の皮には、鮮やかな紫色の色素成分である「アントシアニン」が含まれており、抗酸化作用や免疫力を高める効果が期待できます。またカリウムを豊富に含んでいるため、余分な食塩や水分を体外へ排出する効果があります。

梅干しの酸味成分である「クエン酸」は、唾液の分泌を促進し消化酵素の働きを活発にする食欲増進効果に加え、疲労のもととなる乳酸の生成を抑える疲労回復効果が期待できます。



東大病院へのご寄附のお礼

東大病院基金へのご寄附は、

- ①医療機器の購入、②スタッフの育成、③サービスの向上・院内環境の整備、④臨床研究の推進によるイノベーション創出、のために役立たせていただきます。

★ 東大病院基金寄附者ご芳名 ご承諾いただいた方に限り、ここにご芳名を掲載させていただきます。

※2024年12月1日～2025年3月31日時点(順不同)

サンクスナチュレ株式会社様	株式会社すかいらくホールディングス様	中尾 淳子 様	森 英章 様
菅 裕明 様	有限会社ラティス様	株式会社博進紙器製作所様	Kambara Art Studio株式会社様
株式会社ローソン様	斉之平伸一 様	月成英信 様	浅井敏宏 様
田中敬造 様	小田真由美 様	池谷孝郎 様	前田藍理 様
佐伯咲美 様	小河原宏 様	一田忠男 様	兵頭忠樹・庸子様
寺田勉 様	細田武彦 様	塚田捷 様	津島見一 様
森法子 様	石野裕昭 様	杵洙由美子 様	小野稔 様
高橋尚人 様	吉内一浩 様	高原亨博 様	曾根康予 様
武村雪絵 様	江頭正人 様	都築愛淑 様	小野田実保 様
加藤壯 様	石原聡一郎 様	前鶴俊哉 様	鈴木大悟 様
井原克明 様	高見澤磨 様	多湖正夫 様	小出加代子 様
越田常明 様	大塚健司 様	株式会社おぐら様	寺西信一 様
株式会社ZN商会様	西村 藍 様	平 一郎 様	大和博 様
葉 暁健 様	村田吉樹 様	石山篤 様	原口榮一 様
有安誠一 様	山田紘一郎 様	大橋真子 様	一般財団法人 好仁会様

★ お申込み状況

総件数：775件 総額：435,101,300円

★ 東大病院基金 お申込み方法

- ・WEBサイトからクレジットカード等でいまずすぐご寄附いただけます。
お申込みページ(<https://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt155>)

- ・外来診療棟、入院棟スタッフステーションにある
パンフレット同封の払込取扱票により郵便局、銀行でもご送金いただけます。

スマートフォン・
携帯電話の方はこちら



ご寄附についてのお問い合わせ

東大病院 研究推進課 Email:kikin@adm.h.u-tokyo.ac.jp TEL:03-5800-9753(直通) 受付時間:平日 午前9:00～午後5:00

病院長の つぶやき

「寝かへれば汗のひつゝあつさ哉(正岡子規)」

年々夏の厳しさが増しているようにも思われます。昨年も書きましたが皆様も熱中症対策に十分な休息と水分をお取りください。

さて東大病院では「ホスピタルアート導入プロジェクト」を推進していますが、その一環として、今年の5月から外来診療棟1階と2階にアーティストの山本愛子さんによる草木染作品の展示を開始いたしました。これらの作品は、山本さんが東大構内で採取した植物を用いて作成されたもので、化学染料では表現できない、奥深く優しい自然の色合いが特徴です。外来での待ち時間、あるいは診察前後のひとときに、これらの作品をご覧くださいことで、少しでも心が安らぎ、リラックスした気持ちになっていただければ幸いです。草木たちが持つ生命力や、そこから生まれる色彩の美しさを感じてみてください。自然の息吹が、皆様の心に潤いをもたらすことを願っております。



心臓移植における 連携協定を締結しました

東大病院と東京科学大学病院は、日本の心臓移植医療の発展と地域の心臓移植診療に寄与することを目的とし、心臓移植における連携・協力に関する協定を締結しました。

当院は2002年に心臓移植実施施設として承認され、これまでに250例(2025年6月末時点)の心臓移植を行ってきました。この度、東京科学大学病院が心臓移植実施施設として正式に申請するにあたり、患者さんの受け入れや医療の連携において両病院の協力体制を強化するとともに、当院での実績を活かし、当院から東京科学大学病院に対する診療における補助、人材派遣、人材育成に関しても連携してまいります。

3月10日には、当院から田中栄病院長、小野稔教授(心臓外科)、武田憲彦教授(循環器内科)、東京科学大学病院から、藤井靖久病院長、藤田知之教授(心臓血管外科)、笹野哲郎教授(循環器内科)が出席し、当院にて調印式を行いました。



調印式にて
(左から、東京科学大学病院 笹野教授、藤田教授、藤井病院長、
当院 田中病院長、小野教授、武田教授)

【お知らせ】

今回、連載「医学歴史ミュージアムの紹介」はお休みします。



東大病院
ホームページ



予約センターの
ご案内

出来事

3月～6月

3/17
月

にこにこボランティア感謝状授与式

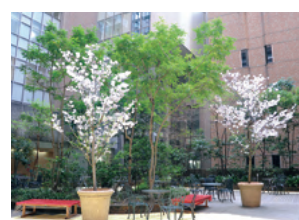
にこにこ文庫や外来診療棟などで患者さんをサポートし、当院の運営にご協力いただいている青いエプロンの「にこにこボランティア」。今年度は、ボランティア活動の継続時間が300時間以上から最長は継続期間20年まで、21名の方々に病院長から感謝状が贈呈されました。(患者相談・サービス向上委員会)



3/26
水

桜まつり

入院棟A 1階のグリーンテラスでは、院内でお花見を楽しんでいただけるよう、2本の桜と縁台を設けた桜まつりが開催されました。桜の見ごろを過ぎるまでの束の間、ご来院・ご入院の皆さん、職員、ともにお花見を満喫しました。(一般財団法人好仁会)



3/30
日

パープルストライド東京2025に参加

日本最大の膵がん啓発イベント「パープルストライド東京2025」が芝公園で開催され、当院で膵がん診療に携わる多職種のスタッフ26名がチームで参加しました。参加人数が参加施設の中では3番目に多く、eチーム賞を受賞しました。



4/1
火

入職式

令和7年度東京大学医学部附属病院の入職式を挙行了しました。研修医、看護職、医療職、事務職の各職種代表が田中栄病院長から辞令を授与され当院での新たな一歩を踏み出しました。



5/26
月

春日野部屋が小児医療センターを慰問

ドナルド・マクドナルド・ハウス 東大の招待で、春日野部屋の清見湯親方(元関脇・栃煌山)、栃大海、栃幸大が、慰問のため小児医療センターを訪れました。立派なお相撲さんにお子さんたちは大興奮。紙相撲や手形入り色紙のプレゼントなど、楽しいひとときをありがとうございました。



5/29
木

各国の理学療法士がリハビリテーション部を訪問

World Physiotherapy Congress 2025が東京で開催され、その一環でユニカルビジット(臨床見学)が実施されました。当院のリハビリテーション部には、世界7か国の理学療法士が訪れ、先端的なアプローチを取り入れたリハビリテーションの現場を見学し意見交換が行われました。(リハビリテーション部)



発行: 令和7年8月20日 発行人: 病院長 田中栄 発行所: 東京大学医学部附属病院
編集顧問: 加我君孝 編集担当: 東大病院PRC(パブリック・リレーションセンター)
連絡先: 〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 TEL.03-3815-5411
URL: <https://www.h.u-tokyo.ac.jp/> 印刷: (株)広済堂ネクスト
※東大病院だよりは、当院ホームページでもご覧いただけます。

題字: 海野清山